



著者プロフィール

明隅礼子（あけずみ・れいこ）

昭和47年 滋賀県生まれ
平成4年 東大学生俳句会参加
平成5年 「天為」入会
平成8年 「天為」同人
平成17年 「天為」新人賞受賞

現在 「天為」同人 俳人協会会員

〈句集『星槎』より転載〉〈2006年9月15日時点〉

『星 槎』（自選十五句）

明隅 礼子

初御空みづのあふみの揺るぎなし
清明や雲の生まるる音のして
白樺派の本並べある夏炉かな
泳ぎ来て空青きことばかり言ふ
草笛の音をかさねて深き空
虫壳の黙つて虫を鳴かせけり
出水して地雷も流れゆきしとか
大男櫓を止めたる市場かな
花の絵のあるコーランや星源し
蓮の花舞踏の稽古終りけり
白蚊帳のなかは真白き波の音
スコールのあと運ばるる聖樹かな
椰子の実に斧振り下ろす大暑かな
ふるさとは麦の秋なり父と歩む
星の夜のつつきのやうに身でもりぬ